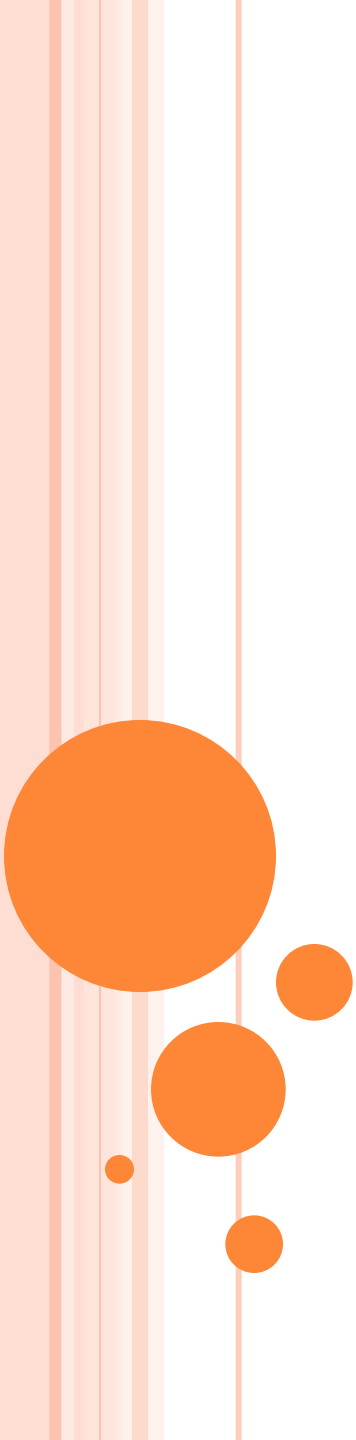




兵庫県喘息死ゼロ作戦 中播磨地域 2011年活動内容

世話人:寺田内科呼吸器科

寺田 忠之

中播磨地域 2011年地域活動報告

1. 喘息死に関する実態調査

【目的】 少数ながら、毎年起こっている喘息死の現状を把握し、今後の対策に活かす。

【方法】 姫路市医師会会員へのアンケートの送付。

2. 休日・夜間急病センターへの吸入ステロイドの導入

【目的】 喘息急性増悪患者の主たるアクセス先である同センターにおいては、初期治療後の患者を適切にフォローアップできる体制作りが必要である。

近年の報告では、発作直後に吸入ステロイドを処方することで、その後の治療継続率が向上し入院リスク等の低減をもたらすことが示唆されている。

3. 小グループ勉強会の企画

【目的】 6人程度(10人未満)の非専門の先生を集めて、長引く咳・軽症喘息に関する小グループ勉強会を繰り返し、啓発を行う。

中播磨地域 今後の活動予定

『姫路市休日・夜間急病センターにおける 喘息発作患者 再受診調査』

実施要綱

兵庫県喘息死ゼロ作戦

中播磨地区喘息死ゼロ作戦推進委員会



「喘息発作再受診報告ハガキ」作成の目的

- 救急受診した喘息患者が、医療機関を再受診し、吸入ステロイド薬等が処方されているかを把握することを目的とします

(かかりつけの医療機関で喘息治療を継続することは、喘息死を防ぐために非常に重要なことです)

- また、このハガキを受け取られた患者の喘息治療に対する意識が向上し、喘息発作での救急外来受診率が減少することを期待しております



「喘息発作」患者様へ

喘息は重症化すると死に至ることもある恐ろしい疾患です。全国では年間約二千人、姫路市でも年間十数人が喘息によって命を落とされています。しかし、日頃から継続的に治療を行うことで喘息発作、喘息死を防ぐことができます。

急病センター受診後は、是非、かかりつけの医療機関を受診して頂き、継続的な喘息治療を受けるようにして下さい。その際に「喘息発作再受診報告ハガキ」を主治医の先生にお渡しください。この「喘息発作再受診報告ハガキ」は、喘息発作で姫路市休日・夜間急病センターへ受診された患者様全員にお渡ししています。ハガキは主治医の先生によって受診日や治療内容が記入されたのち、急病センターへ返信されるようになっています。

このハガキによって、喘息発作後の受診状況を把握することができ、今後の喘息死を減らすための活動の参考とさせていただきますと考えています。

また、実態調査のため、ご連絡させて頂くことがあるかもしれませんが、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

【患者様に差し上げるもの】

- ① 患者様向け喘息啓発チラシ
- ② 主治医の先生に渡す頂くもの
- ③ 受診医療機関向け依頼文書
- ④ 喘息発作再受診報告ハガキ



【姫路市休日・夜間急病センターにおける喘息発作 再受診調査】
兵庫県喘息死ゼロ作戦
中播磨地区喘息死ゼロ作戦推進委員会

喘息で受診された患者さんへ①

兵庫県喘息死ゼロ作戦

ぜんそく
喘息とはどんな病気？

喘息とは、胸ぐらに息をすることから付けられた病名です。明け方や夜中に症状の現れられることが多く、ヒューヒューやゼーゼーといった音の聴えるような呼吸音（喘鳴）が特徴的で、激しい咳や息苦しさを感じる疾患です。

慢性の気道炎症が問題です！！

喘息は発作のときだけ気管支の収縮が起こる病気と考えられてきました。しかし研究が進み、気管支喘息は慢性的に（症状が良れないときでも）気管支に炎症が生じている状態であることが分かっています。



炎症を抑える治療により喘息をコントロールできます。しかし、十分な治療を受けておられない喘息患者さんは、慢性的な気道炎症によって徐々に気管支が弾力性を失い、症状が不安定になったりします。簡単に言えば、気管支が収縮しやすくなる状態になります。簡単に言えば、気管支が収縮しやすくなる状態になります。簡単に言えば、気管支が収縮しやすくなる状態になります。

一ツメ：炎症とは何らかの有害な刺激を受けながら起こる防御反応の一つです。けがをするとき、傷口が赤く腫れるのは炎症の一側面です。気管支喘息ではアレルギーなどにより気管支に炎症があるため、治療としては「炎症」を抑えるのがとても重要です。

兵庫県喘息死ゼロ作戦実行委員会
<https://www.med.kobe-u.ac.jp/asthma/index.html>

喘息で受診された患者さんへ②

兵庫県喘息死ゼロ作戦

喘息の治療法

1) 喘息発作の原因となるものを避けましょう

- (1) 抗薬（アレルギー：アレルギー反応を引き起こす原因物質）からの回避
風通しによる部屋の換気除去や加湿、結露などの掃除、花粉飛散の時期には花粉の吸入にも注意を。
- (2) ウイルス感染防止
風邪やインフルエンザなどのウイルス感染は、喘息の悪化を誘発します。手洗いやうがい、のど飴の服用を。
- (3) タバコ
禁煙しましょう。禁煙が難しい方は、専門病院の禁煙外来なども利用してください。

2) 薬物によるコントロール

- (1) 吸入ステロイド
喘息の根本治療においてもっとも効果的な薬です。喘息治療の基本となる吸入薬です。喘息発作を抑えることが期待されています。



- (2) 長時間作用型気管支拡張薬
症状コントロールに有効ですが、
これのみの使用は禁じられています。
- (3) (1)と(2)の配合薬
2種類の吸入薬を同時に吸入できますので、吸入の手間が省けます。



- (4) ロイコトリエン拮抗薬
気管支拡張作用に気管支収縮抑制作用を有する薬です。アレルギー性鼻炎併発や運動誘発性喘息、アスピリン過敏症に有効な効果があります。

- (5) 徐放性テオフィリン
ごく少量に用いられている薬剤です。これのみの長期使用はやめましょう。

3) 発作の治療

- (1) 長時間作用型気管支拡張薬
発作時に使用します。
- (2) 短口（速効型）ステロイド薬
重症発作時の治療に用います。十分量を用いて早期に症状改善を行い、短期間のみ使用するが原則です。

兵庫県喘息死ゼロ作戦実行委員会ではホームページを作成しております。是非そちらもご覧下さい。
<https://www.med.kobe-u.ac.jp/asthma/index.html>



平成 24 年 4 月 3 日

去留医先生 御待史

兵庫県喘息死ゼロ作戦
中播磨地区喘息死ゼロ作戦推進委員会
代表依頼人 寺田忠之
世話人 金岡正樹 岸本浩幸 田中 明 中谷裕司
西尾利彦 望月吉郎 八木一之 山田光宏

『姫路市休日・夜間急病センターにおける

喘息発作 再受診調査』依頼

照啓

時下、先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

2006年度厚生労働省より、「喘息死」をゼロにすることを目標として、地域の関係者が連携して病診連携の構築や普及啓発、患者の自己管理の徹底等を図り、医療の質の向上を図る「喘息死ゼロ作戦」が提唱されました。2010年7月兵庫県においても「兵庫県喘息死ゼロ作戦」が開始し、2010年12月中播磨地区喘息死ゼロ作戦推進委員会が発足するに至りました。

この度、喘息発作で姫路市休日・夜間急病センターへ受診した喘息患者を対象に、その医療機関へ再受診したかを把握するための手段として、「喘息発作再受診報告ハガキ」を作成しました。喘息治療を継続するために、その後の再受診の有無は非常に重要であり、再受診した喘息患者が、その後医療機関へ再受診し、吸入ステロイド薬等を処方されているかを把握するため、ファイルに同封されております「喘息発作再受診報告ハガキ」へのご記入、返信にご協力をお願い致します。

ご返送頂きました情報は、兵庫県喘息死ゼロ作戦 中播磨地区喘息死ゼロ作戦推進委員会にて集約し、今後の喘息死ゼロに向けた活動の参考とさせていただきます。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、何卒御高配いただけましたようお願い申し上げます。

【喘息治療再受診報告ハガキ 記載依頼事項】

- ① 受診日
- ② 処方薬チェックリスト
- ③ 医療機関名 医師名

謹白

喘息発作 再受診報告

年 月 日 救急外来受診

・ (イニシャル) (男・女) 才

年 月 日に受診されました。

【治療薬】(処方された薬剤をチェックして下さい)

- ☐ 吸入ステロイド薬
- ☐ 吸入ステロイド/長時間作用性β2刺激薬・配合薬
- ☐ 長時間作用性β2刺激薬
- ☐ ロイコトリエン受容体拮抗薬
- ☐ テオフィリン徐放製剤
- ☐ 短時間作用型気管支拡張薬
- ☐ その他 ()

医療機関名

医師名

ご意見記入欄

NO.

兵庫県喘息死ゼロ作戦

調査予定症例数と対象患者

- 100例以上
- 喘息発作で姫路市休日・夜間急病センターへ受診した喘息患者を対象とします
(5歳以下の場合は喘鳴ありを喘息発作とします)

調査期間と調査方法

- 2012年4月 ～ 2013年3月(12カ月)
- 喘息発作で急病センターに受診した全ての喘息患者に、窓口精算時に、窓口受付より下記資料①～④の入ったファイルを渡していただき、かかりつけの医療機関を受診時に③と④を主治医に渡すように説明して頂きます。主治医の先生には、④の「喘息発作再受診報告ハガキ」に必要事項を記入し、中播磨地区喘息死ゼロ作戦推進委員会事務局 寺田内科呼吸器科宛てに返送して頂きます。